



第10回 大阪小児在宅医療を考える会

◎ ALL OSAKA で小児在宅医療を考える会です ◎
◎ 毎年、200名前後の多職種の方にご参加頂いております ◎

【テーマ】

\\ どないすんねん！ //

情報

～医療的ケアが必要な児（者）のトランジションを考える～

【医療的ケアを必要とする子供達の成人期への移行支援をみなさんと一緒に考えます】

小児期医療と成人期医療を繋ぐ懸け橋となる「移行期医療（トランジション）」は、医療管理の主体を養育者から本人に移し、医療の担い手を小児科医療から成人科医療へと移行する時期の医療です。小児在宅医療が推進されて10年余、子どもたちは大きくなり、思春期を迎え、青年期・成人期を迎えてきています。われわれ医療者は発達段階を考慮しながら患者に最も適切な医療を提供するとともに、質の高い生活や生きる力を育めるように支援していく必要があります。小児在宅医療におけるトランジションという未知の医療について議論を重ね、大阪方式を作っていけたらと考えます。

特別講演

「小児在宅医療における移行期医療」

医療法人財団はるたか会 理事長

子ども在宅クリニック あおぞら診療所せたがや 院長

前田 浩利 先生

パネルディスカッション

「どないすんねん！

医療的ケアが必要な児（者）のトランジションを考える」

◆ 日 時： 2020年1月19日(日) 9:00～13:00

◆ 会 場： 大阪市立総合医療センター さくらホール

大阪市都島区都島本通2-13-22 TEL06-6929-1221(代)

◆ 参加費： 無 料（事前登録不要）

◆ 参加対象者： 小児在宅医療に関わる多職種の方

（患者さんご家族のご参加は現時点では想定しておりませんので、今回はご容赦下さい）

担当：NMC S 基幹5病院（高槻病院、淀川キリスト教病院、愛染橋病院、

大阪市立総合医療センター、大阪母子医療センター）

お問い合わせ

大阪母子医療センター内 患者支援センター

TEL. 0725-55-3113

E-mail: kodomo@wch. opho. jp

主催:大阪小児在宅医療連携協議会

後援:大阪府医師会、大阪府看護協会

次の頁へつづく

プログラム

◎総合司会／大阪母子医療センター 望月 成隆氏

◎開会挨拶／大阪小児在宅医療連携協議会 位田 忍氏、大阪府看護協会会長 高橋 弘枝氏

第1部：情報提供 座長 大阪市立総合医療センター 川脇 壽氏

- 1) 大阪府の難病対策と移行期医療支援対策 大阪府地域保健課母子グループ 上栴真由美氏
- 2) 大阪府の移行期医療支援センター 大阪母子医療センター 位田 忍氏
- 3) 5病院での20歳以上の患者の現状報告と対策（重症児の加齢に伴う状態変化も含む）
NMC S基幹5病院／大阪母子医療センター 鈴木 保宏氏
- 4) 療育施設の現状（入所人数・年齢、超・準重症児者数、人工呼吸器・気管切開児者人数、
年間新入所数、施設の抱える問題点など）
大阪府ショートステイ連絡協議会、四天王寺和らぎ苑 塩川 智司氏
- 5) 大阪市医療コーディネーター事業緊急入院および地域かかりつけ医紹介制度
大阪発達総合療育センター 和田 浩氏

第2部：特別講演 座長 愛染橋病院 隅 清影氏

「小児在宅医療における移行期医療」

医療法人財団はるたか会 理事長

子ども在宅クリニック あおぞら診療所せたがや 院長 前田 浩利先生

第3部：パネルディスカッション

座長 大阪母子医療センター 位田 忍氏
淀川キリスト教病院 塩見 夏子氏

「どないすんねん！医療的ケアが必要な児（者）の トランジションを考える」

- 1) 患者・養育者への説明（自立支援の観点から、時間軸を示し、見通しを立てる）
愛仁会高槻病院 小児科 四本 由郁氏、橋倉 尚美氏
- 2) 移行期に達した在宅児への対応と連携 ～総合診療医の立場から～
菜の花診療所 院長 山寺 慎一氏
- 3) 在宅医療におけるトランジションへの現状と課題 小児科医の役割
にのみやこどもクリニック 院長 二宮 英一氏
- 4) 医療的ケアが必要な児（者）のトランジションへの訪問看護の関わり
訪問看護ステーションみらい（枚方市） 岩出るり子氏
- 5) 成人期に移行する方の社会資源利用について
大阪発達総合療育センター 地域医療連携部 地域医療・福祉相談室 近藤 正子氏
- 6) 高等部における重度心身障害のある生徒の進路指導について
大阪府立堺支援学校 高等部進路指導部 岸田 大輔氏
- 7) ディスカッション

◎開会挨拶／大阪府医師会副会長 中尾 正俊氏